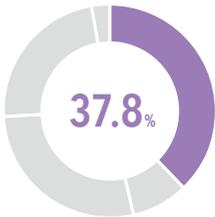
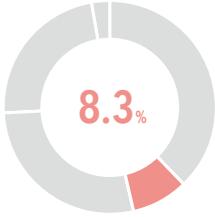
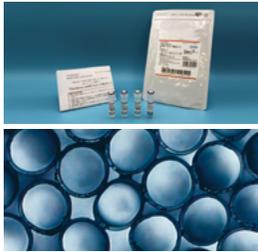


事業戦略 事業別概況

		連結売上高構成比	売上高・営業利益(億円)	主な用途	製品例
フィルム 	<p>工業用フィルム事業では、液晶偏光子保護フィルムは販売を大きく伸ばしましたが、セラミックコンデンサ用離型フィルムは在庫調整の影響により本格的な需要回復に至らず苦戦しました。包装用フィルム事業では、製品価格の改定を進めましたが、原燃料価格高騰、需要回復の遅れ、新設備の立上げ費用がかさみました。</p>	 <p>37.8%</p>	<p>売上高 1,565</p> <p>営業利益 27</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●工業用フィルム ●包装用フィルム 	
ライフサイエンス 	<p>バイオ事業は、PCR検査用試薬の需要が大幅に減少しましたが、メディカル事業は、人工腎臓用中空糸膜の販売が堅調に推移しました。医薬品製造受託事業は、FDAからのWarning Letterが解除されたことにより、GMP(医薬品等の製造および品質管理基準)対応費用が減少し、収益性が改善しました。</p>	 <p>8.3%</p>	<p>売上高 346</p> <p>営業利益 44</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●バイオ関連製品 ●化粧品原料 ●医療用分離膜・モジュール ●医療機器 ●医薬品関連 	
環境・機能材 	<p>樹脂・ケミカル事業では、エンジニアリングプラスチックは、自動車生産の回復により販売を伸ばしましたが、工業用接着剤は、中国向け電子材料用途の販売が低調でした。環境・ファイバー事業では、環境ソリューションは、リチウムイオン電池セパレータ製造工程用VOC回収装置の販売が拡大しましたが、高機能ファイバーは、釣糸用途の販売が低調、不織布マテリアルは、衛材用途や土木・建築用途の販売減に加え、原燃料価格高騰の影響を受けました。</p>	 <p>27.8%</p>	<p>売上高 1,153</p> <p>営業利益 47</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●接着・コーティング剤 ●エンジニアリングプラスチック ●エラストマー ●海水淡化化膜・モジュール ●環境ソリューション装置・フィルター ●高機能ファイバー ●生活資材 	
機能繊維・商事 	<p>衣料繊維事業は、国内生産拠点の集約や不採算商材からの撤退などの事業構造改革に加えて、製品価格の改定が進み、収益性が改善しました。エアバッグ用基布事業は、自動車生産の回復に伴い販売量が増加したことに加え、製品価格の改定が進み、収益性が改善しました。</p>	 <p>23.1%</p>	<p>売上高 957</p> <p>営業利益 ▲10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●エアバッグ用基布・原糸 ●スポーツ・インナー・ユニフォーム・その他衣料 	